

令和5年度 京都市衛生環境研究所年報

ANNUAL REPORT
OF
KYOTO CITY INSTITUTE OF HEALTH
AND
ENVIRONMENTAL SCIENCES

No.90 2024

京都市衛生環境研究所

はじめに

新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の感染者が令和2年1月に初めて確認されてから5年が経ち、世の中はほぼコロナ禍前の日常に戻ってまいりました。

この間、地方衛生研究所をとりまく状況も変わり、国では新たな感染症の脅威に備えて、COVID-19への対応を踏まえ、「感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律」及び「地域保健法」を改正し、自治体における地方衛生研究所の設置を明文化し、感染症などの健康危機事案に対する機能強化を図るよう、必要な体制整備を求めました。

これを受け当研究所においても、令和6年3月に「京都市衛生環境研究所 健康危機対処計画（感染症編）」を策定し、コロナ級の感染症危機が発生した有事にも、円滑かつ迅速に必要な検査体制に移行できるよう、平時から必要な物品の備蓄や体制整備、人材育成に努めているところです。また、年に一回、円滑に危機管理体制に移行するための実践型訓練を実施して課題を抽出し、必要に応じて計画の見直しも行っていきたいと考えております。

健康危機事案は感染症に限ったものではありません。当研究所は、食の安全・安心においても重要な役割を担っており、食品添加物や食品に残留する農薬・動物用医薬品等の検査、食中毒に係る病原体検査、さらに、中央卸売市場第一市場での鮮魚及び青果等を取り扱う事業者に対する衛生指導及び監視業務、第二市場でのと畜検査等により、食品流通初期の段階での食品事故発生の未然防止に努めております。

昨今、感染症のみならず、食品衛生、環境衛生など、幅広い分野での公衆衛生の重要性が高まっておりますので、関係機関と連携を図り、市民の皆様の健康や安全・安心を守るため、そして、専門的な知識を有した地域の試験検査の中核としての役割を果たすため業務に邁進してまいります。引き続き、御指導、御鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

令和5年度における実施事業及び調査研究の成果について、年報（第90号）として取りまとめましたので、お目通しいただけると幸いです。

令和7年1月

京都市衛生環境研究所長
篠崎 史義

目次

第1 事業概要

1 沿革	1
2 施設	1
3 機構及び事務分担	2
4 試験検査	3
5 各部門の事務	
(1) 管理課	4
(2) 食品化学部門	4
(3) 微生物部門	5
(4) 食肉検査部門	6
(5) 環境部門	7

第2 試験検査

1 生活衛生に関する試験検査 [食品化学部門、微生物部門]	8
2 食品衛生及び栄養に関する試験検査 [食品化学部門、微生物部門]	10
3 医薬品成分に関する試験検査 [食品化学部門]	19
4 微生物及び免疫に関する試験検査 [微生物部門]	20
5 衛生動物に関する検査、相談処理及び調査鑑別 [管理課]	22
6 食肉衛生に関する試験検査 [食肉検査部門]	23
7 環境に関する試験検査 [環境部門、微生物部門]	28
8 試験検査の信頼性確保業務等 [管理課]	40

第3 監視指導業務

1 京都市中央卸売市場第一市場における監視指導業務 [食品化学部門]	43
2 京都市中央卸売市場第二市場における監視指導業務 [食肉検査部門]	46

第4 普及啓発及び研修指導等

1 京都府市連携「夏休み体験教室」	47
2 4施設合同展示	47
3 京都市衛生環境研究所にゅーすの発行	47
4 各種媒体を用いた感染症情報の発信	47
5 市民等からの相談受付件数及び研修指導等	48

第5 調査研究

1 報文

令和5年度BG-センチネル™2トラップによる京都市内における蚊の成虫生息調査.....	61
令和5年 京都市感染症発生動向調査事業における病原体検査成績	67
機械学習による京都市の光化学オキシダント濃度の予測モデルの構築	78

2 他誌掲載論文、学会発表等

他誌掲載論文	90
学会発表等	90

3 衛生環境研究所セミナー

令和5年度 衛研セミナー発表演題	91
京都市衛生環境研究所における精度管理業務の現状と課題	92
京都市内におけるマダニの生息調査について	94
スイセンによる食中毒に対する新規検査方法の検討	98
収去検体搬送時の信頼性確保について ～収去BOXの汚染状況と温度管理について～	102
京都市における大気粉じん中の六価クロム化合物の分析	106
京都市と畜場に搬入される豚のサルモネラ保菌状況の調査	111